

みんなの
大すきな **カレー** が

危ない!



**野菜、
スパイス94種類を放射線で殺菌!?**

STOP!

食品への放射線照射

**照射食品からは
放射線が出ています**

第2次世界大戦中にアメリカ軍は、食料の殺菌を放射線で行う研究を開始しました。その後、兵士の食料には放射線照射食品（照射食品）が供給されるようになりました。しかし、1968年8月、アメリカ軍は照射食品をやめました。その理由は極秘にされてきましたが、厚生労働省（国立医薬品食品衛生研究所）が2002年から3年かけてアメリカ軍のデータを調べ、理由があきらかになりました。放射線をあてた食品からもとの食品の3倍もの放射線が出ていたからでした。照射した物質から放射線が出るようになることを「誘導放射能」と言います。

©2011 ちばてつや

からだにどんな

体重減少、死亡増加、染色体異常…… 安全性の実験で報告される問題点

- 照射ジャガイモの安全性実験でラットの体重減少、卵巣が小さくなる、寿命の短縮、死亡の増加などが指摘されています。(1972年、厚生省審議資料)
- 照射タマネギの実験でもラットの遺伝子に傷が付く、奇形、骨の異常などが報告されています。(1980年、食品照射研究運営会議資料)
- ソ連のコピロフらは、照射ジャガイモのアルコール抽出物に突然変異原性がある実験を行いました。(生物物理学研究センター 1959 - 1972年)
- インド国立栄養研究所での一連の照射小麦実験で、特に栄養失調の子どもに照射小麦を与えると白血球の染色体に異常が起きる報告が公表されました。(1975年)
- 照射によりできるシクロブタノン類は、細胞内に活性酸素を生成し、アポトーシス(細胞死)を起こすことが判明しました。(2012年、食品安全委員会報告書より)

オーストラリア政府、 キャットフードへの照射中止

オーストラリア政府は国内の固有動植物を守るため、非加熱の輸入ペットフードへの照射を義務付けていました。しかし、照射キャットフードを食べた猫が致命的な神経障害を引き起こし、死亡する事例が相次いで報告されました。政府は2009年5月末、照射中止を命じました。この照射キャットフード事件は人の食物への照射に警告を発しています。



©2011 ちばてつや

悪用する企業—照射ベビーフード事件

1978年、赤ちゃんの食べるベビーフードの殺菌に放射線が4年間も照射されていた事件が発覚しました。和光堂の下請け会社が日本原子力研究所の研究者から紹介された「ラジエ工業株式会社」で違法照射を繰り返していたのです。この事件は、儲けのためなら赤ちゃんの食べるものでも照射するという異常な実態を見せつけました。当然、刑事裁判で有罪となりました。

放射線照射食品を STOP させる 13の理由

1. 照射食品は、人の健康を損なうおそれが高い。
2. 照射された食品から放射線が出るようになる（誘導放射能）。
3. 国際機関が10キログラムまでの照射は安全とした報告書は、その後、誤りとわかった。
4. 照射で食中毒を防げるといふことには根拠がない。
5. 照射すると特有な臭いがし、食品の質が低下する。
6. 照射による発芽防止・熟度抑制は、見かけの鮮度だけよくみえる。
7. 照射された食品の照射線量・回数を調べる方法（検知法）がない。
8. 照射したかどうか調べる方法も完成していないので、管理・監視ができない。
9. 照射前の不衛生な取扱いも殺菌して隠せるので、照射ベビーフード事件のような悪用・乱用のおそれがある。
10. 照射しなくても、殺菌、殺虫、発芽防止などを代替する方法がある。
11. 世界の多くの国が照射食品から撤退している。アメリカ、ヨーロッパ諸国、オーストラリア、ニュージーランドなど、世界各国で照射食品に消費者が反対している。
12. 日本の多くの食品業者も照射食品を要望していない。
13. 日本では照射食品のニーズはほとんどなく、照射を認める緊急性も必要性もない。

【連絡先】

照射食品反対連絡会（53団体および個人の参加で運営されています）
連絡先 〒106-0032 東京都港区六本木6-8-15 第2 五月ビル2F
照射食品反対連絡会事務局
電話 03-3402-8841 メール sshrk09@gmail.com
ホームページ <https://sites.google.com/site/noshousha/>
フェイスブック <https://www.facebook.com/shosha.hantai>
食品照射ネットワークホームページ http://www.sih.jp/news/s_menu.htm

絵/ちばてつや



このリーフレットは、「放射線照射食品」に関心を持っていただき、その問題点を知っていただくために作成しました。イラストは、照射食品をSTOPさせる活動に共鳴してくださる『あしたのジョー』の漫画家、ちばてつやさんに描いていただきました。

野菜やスパイス94種類への照射を阻止しないと、子どもたちの大好きなカレーも危なくて食べられません。消費者の「照射しないで!」という声を政府や企業は真摯に受け止めるべきです。

カレーやスパイスを販売する会社に照射食品を使わないように申し入れてください。カレー屋さんを作っている会社のみならずも反対の声をあげてください。

毒性など詳細を知りたい方は「照射食品反対連絡会」「食品照射ネットワーク」のホームページをご覧ください。また、フェイスブックでも情報を提供しております。

このリーフレットは、賛同された団体・個人でコピー・増刷して配ってください。